

西洋道中膝栗毛

五編
下

14
1260
10



門 へ 18
冊 1260
巻 10

西洋道中膝栗毛五編下

東京

假名垣魯文戯著



海峽を隔て長サ百二十里人口二百五十万あり
往時の葡萄呀の所領なりしが或百余年ま
和茶に屬し後二十五年茶より英國に屬せり
西岸小可倫破府あり那ち傳の肉の都府之
亦ポイントテゴールの港の西南のきしふありけ

西洋道中膝栗毛五編下

番ハ二千四百余年花新迦如来诞生の地あり
 仏堂ありトドレあり去人々トドレ法小律依
 まること有及中トドレ冠たり番の中トドレアムガ
 峯とてトドレチ千二百百余の山あり新迦トドレ山小
 籠りトドレ法を授くる靈場とて傳ふトドレも
 大系屋の一居ハゴール港の終宿トドレ又若一志は
 ころろぐそのひぬ又例の跡トドレ部ハ八あび通
 次部トドレが本小のなり池トドレ又ちありトドレさるだあり

廣務トドレをドめ一因トドレ小を據トドレりも意なく
 澤納トドレりくその夜をありトドレ聖日ハけみか
 とふ通トドレぬほしトドレくをのがまトドレく橋の形を
 又物トドレをべしと廣務トドレが物トドレをほトドレく男女トドレ一ト
 群トドレらちほしり英吉人の案内トドレ小属トドレありひく
 小立トドレある小絲トドレ次ハ八通次部トドレの三個ハ橋を
 ひきちぐく船府トドレの旁トドレハありほしトドレく新迦トドレの靈
 地トドレ小系トドレ結トドレせんトドレと地トドレをトドレ目的トドレハ阿弥トドレ陀トドレがさ

西洋要毛五下

脊中よさ毛目を除あぐら汗小汗亦も絞り
 深妻とわらうと赤皮の気候の定例妻夏の
 ごく暑さをげしき暑のされぬあをたる
 焼びりさのその苦あもせ取顔の互小負ぬ
 季渡がまん「アダムが季の禁よ若ぬ

○け清さたよりるが如く若平交中を
 仏教の盛んある地あて浮屠氏を
 尊信のあまりの夫人の若信若者とき

俗侶の糞小便を奪ひくを更婦んぐ
 飲食ひ或の自らのそのかただをくしめ
 食を断ち痛さを志のび又の仏像を
 載たる車の轍と轆殺さるくことを志能
 あし冥福変生等を祈るの弊習あり
 近來英國政府より令を出しくを
 を禁むとくとも固有の陋習小深
 て遠鄙をどふまうてい今不能くあを

改むること能むとらふ

朝ぐと個の靈山とあがしき舞の本立の藤小
 志はしあつさを避あがら 通「弥次さん見えせしめ
 べ宿直の悪テキがらわくことばと僕お活し
 へアダムが峯のアリくむるあよるくる樹あくの
 志んくと茂つるさるよあ遠おんせ 通「ア、彼
 妙づくあるやどか志やうさぬが法でも競かつ
 志ったところらいらのう 此「ア、通次さんおめく

けあつらのおえんみつまらぬんせさん人を引ッ
 強ッてきて休が面おいのぞあんるさるやぬ
 の布ったとて物もこれとり目あてのありや
 ア志めくやかびんはしらくぬらう志やアぬら
 ノウ通さん 通「ア、あくの風韻のねん男だを
 我まよあてせし新舊跡のどきく踏形を
 通ッてんよゆく志やア移くう境や弁玉の藤
 だまらぬも夷曲の一首もよむ志やアぬら

きていん風流人の美似もあてえろ
 ひよああり
 へよんでも大ありののきん玉をえるゆうふ
 目ふやびくく山まこ山まふめりい大さふ
 がねく通おさんゆも附合だち家のたねふ
 おじふくくあせくおし志かてがねく附合やせう
 ぜんてく志やうとりふ人あひひらけねく和商だ
 子らんあありい山の中の中の茶いされで目録は
 志るるゆうあ昔いあひせしう法をさう録入

ぢもゴール港の水辺う船の中でも借り込ん
 ですじいとこで脱げばりのふヨ録
 めそんあ務名のり樂あことほしう
 変がでさるありのり難あ若あを志とげたうら
 難遊年尾如来だの世さだのと後世あがめ
 られるのさ北
 ららアざらが如来とそーられ
 ても生てあるうち難あ若あの志うくねくどん
 むあうてんことをさくう志らねくが難遊の夢志



家々多岐のやア道業因を志てやううとらめせ
 妙志やアねう誦そのつらすてたごお八のどらる
 く北あらア友をせ入らや附合ったの
 から業対つらるふとちをのびるのりまうひら
 ぶ通治さんあうけためつらぶお妙如の家をうちあめんが
 ぐ下山をやとま休休してくまるやうふたのんをめん
 合せ入通通そんならあめんまじのらちお家中を是
 をやせめあせ入トかのふんおむいお八をあんが下山を
あふおやまほしてあてられるとたのとおき

であのふつれ跡ふお八け家の椽ふ腰らはたりけて一人
 てのぢりゆくあふ跡ふお八け家の椽ふ腰らはたりけて一人
 ごと「ホンニすのううかてあうぶせ志わかあふの靈場
 だの仏あふの舊跡ぶのと雲をつらむゆうまことえ
 引ひつをひつとひ引ひうまて言價業因あふ賃賃をとられ
 て目めがさめらのぶ通通テキも通通テキた西洋あふ学
 てもやううそののらあふ法法あんどとらふ白あふ痴痴を
 ともらびくあふつらあふ後入ことふひぬまあふつらやしたり
 是あふをあふつらあふせるあんどとらふことらあるものか

西遊記

おるやうとく 後塚の清涼ちへいつたやうヨ 通イヤ
 サその細工とりよりの松中森三郎をぶしヨ
 北「ア森三郎がなびるあらたりよ 森三郎あん
 ざア足結をまのくせいらべをまゐるだらう
 通「あつふあらアちぢもきうれるかと 忠ツく
 まどかツたぜ 北「コウを海しあひがでさるあら
 日本へつれく 啼ツく 海軍の栗山あまの
 道了さぬのお寢帳にえせりのふぢも 掛りやア

淵深だごん 金めうけづ 通「あつだんあやア
 移く移りよ 古物をけんぶつあやアを
 しふあら移ア、五羅かつた菊 魚あそだぶ
 つく 北「ア「あらアさるをりありがてくね
 三あめくがぶあうく ころんくとさんけいさる
 ろち 訪くさびれころよ 後がへツく 目がまのり
 そうとせ 通「僕もあなきう 空後ぶモウ 被これ
 一字 日本府 だらう 市中へ出く 牛う 取くも

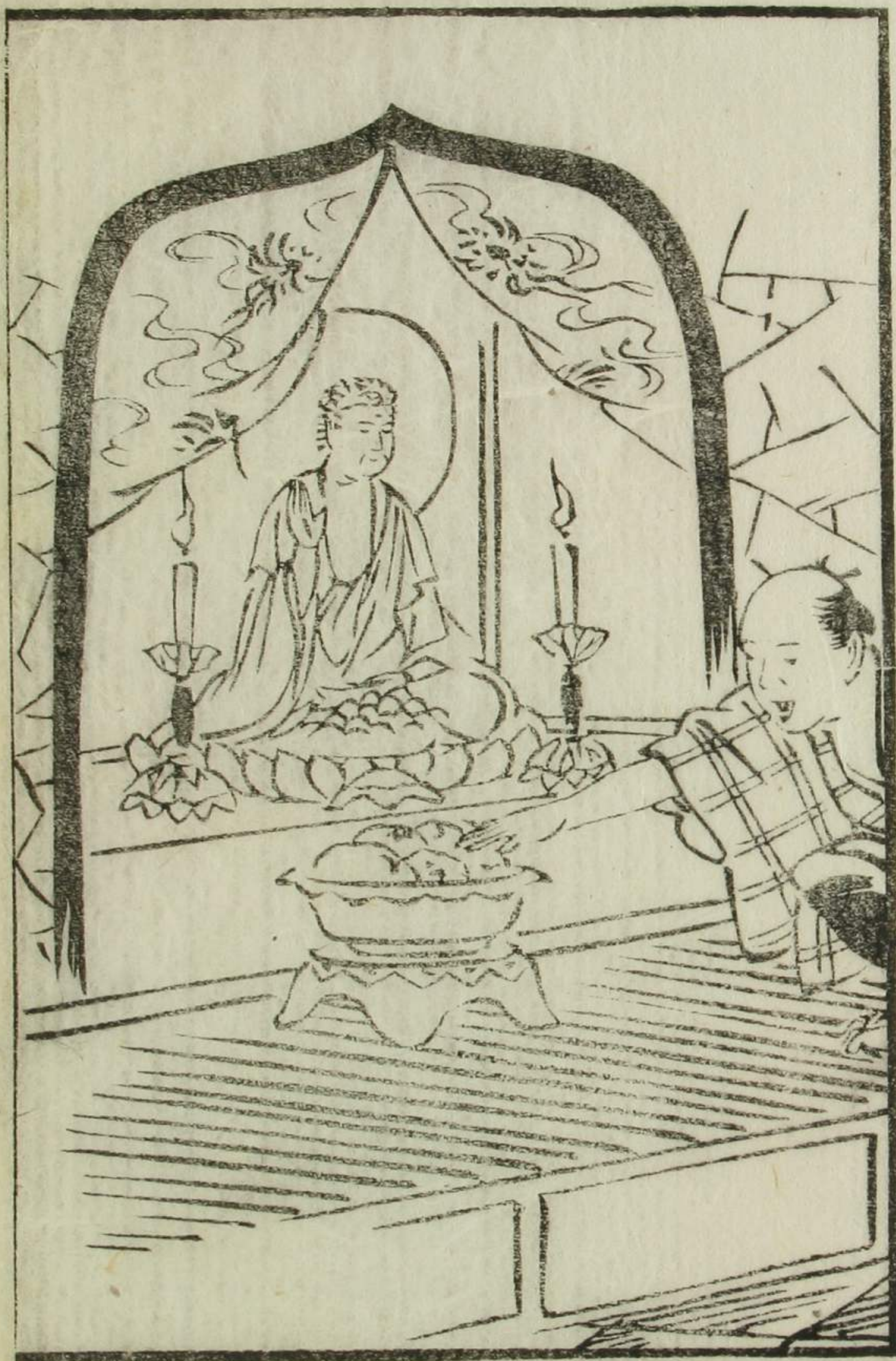
やうらうとさう
 トこのやのふらふらあやからまのまのべらとまを
 びてなちらうるよ強は座北八由とゆふらまを
 さまをのや八のやどとさうあくとらんあゆとみだれてひさうと
 かどらちの本の楊ふつまうたさうおひゆしおさげんちよろまほしたる
 たものよ。パングニツシうげだせぬのふんがうふんをこれを見る
 よりや八のそをふかけさうかのパンをひろひとりや八のむあむらをとら
 てあらくごたきいてああるとやらぬことばゆそのもある 通さん
 やるよ通次座強は座のあひよりやむがたきふあむら

たのふんごよ八めが尻尾をまきやアかつるぜりめん
 まし通コレサおさんつまらぬきやまをしとこま
 らせちやアらけぬせどじしたごぐく 北 ちふサ
 あんまり泣くびれくきよごらぐぬかからまの家

をいまのまことアノ伝櫃のそをふるよけのもり
 島のさぐりとるくパンの菓あむぐあらだらう
 からア余り好おやアぬくれどひゆじとまの
 まつらものまじとやとへッて後ッあむげひと
 つまんごけうなるとまろく女房が印紙からう
 ぬッくまいたのむびうしむさしんよッいたも
 とくニツビツクまのむかとのへうりご通さん
 ちうらうやうあたのまをま

トあやのふらふらあやからまのまのべらとまを
 びてなちらうるよ強は座北八由とゆふらまを

西洋和色下



西洋和色下

五

糞小便をのらッてまろく吞せるのが此ると鶏の
 あくまも伝ふがらでそれが功験て全快とりふ
 からのをじらおやアおんう練アそれおやアかハの
 せーめくパンのゆつろり一件あま製方たのござ通
 そろサ糞と小便のどろろくおまろあやアあらぬ
 からのパンのあま煉まぜくおろのをおハさんが
 あくろめ人のパンだとおッくらおまろいほをま
 たのびア、人のとどまもろくトとほのらち
 おハたどめ

わいのまじらあらんてあまのまろめおれじらわおしせんあ
 ら糞と小便とどろろく練アそれを喰ったのろゲマ
 プーア、どろじたらよあろろそれおヨたあろ
 あらぬんことドルせんめんと投あんだくらあせせんぐを
 のころろろをすッたのろけしイゲマ引くこれ
 があんの物物らどろろらとよのびゲロトとち
 をとア
小るのまじらあ
 らんごよぞア
 むらじらくらぬたらそんあまのまろめあまおせ

親おやのまゝがわらうたらねくでおとこ愛人のくそままで
 喰くやアでめんもよう。どおとこ彼が精しんこをおとこ
 ヲ〜た〜物ものを喰くりやもあつねくことらあ
 か〜がねくあまのやうふラシヤメンの知し人ひと送くわい込こん
 でマドロスよりんねんをつけられる情しん人ひとといち
 がひやま誂〜らぶらぶらめあれてめんと通とさん
 ぐら〜づらをあ〜からの男おとこ遠とちう〜びとをらの
 らが官あみ〜ら因果いんぐわい意い報ほうあまじら通と〜ア〜

とんぶ知し〜とあつけ人をいれるせこれらねん
 のおとこ交ど養よう〜か〜たをとられるのござおとこモ
 ウ〜らそのをましいす〜え〜ねく未まおねが
 お〜〜まるからヨ誂撰せん演えんですつてあまツた
 小こ名な物ものえ世よをおとこ外がい國こくの未ま〜ひるげるのもあ
 れ〜おるぜ通と〜おさんおさんの神かみ送くわい家か〜から因いん不
 げろ〜の石いし淨じやうをえ〜は〜ろん不ふの石いし淨じやう
 を喰く〜のござ〜あそれ〜〜カウ〜モウ〜

かげんはしとらんをせしまるひらさく
 志んとうおかけくあやまつてすうすあ
 てやうがらんを大後みえほしハねく世通
 ひあくひろめくあふア〜〜
 北八由やまかじく
 婆羅門の誓と志ぬが佛國
 喰ひしあとの口をきこのね
 殊に解ハこれをきくより例の口から出たら

らめふ
 佛とひる法座の玉のまろめ
 通に解も志しかんぐ
 大お使の通辨役なり
 たねるあやア縁があるせ上海と誓をあびて

西洋栗毛五下



西洋栗毛五下

十七

西洋藥手五

假名垣魯文戲著釋史目錄萬笈閣藏

遊覽東京滑稽物見車

一快二卷 初編近刻

雜談牛店安愚樂鍋

街談巷說俗問乃議論を滑稽言ふありす

塵八百胡瓜圖解

一名ハチマツの皮と引けたるものさしき小冊之看官抱腹遠

對話萬客傾語箋

ガンスガマスの云も更ガリ横文字と似る蚯蚓文字をものせり

明治四年辛未新年新刻

發行

書林

京都三條通柳馬場
大坂心齋橋通南久室寺町
備後町
安土町
尾張名古屋本町三丁目
二丁目
東京日本橋通三丁目
二丁目
△ 芝神明前
△ 横山町三丁目
△ 浅草茅町二丁目
△ 水石町二丁目角

堺屋仁兵衛
伊丹屋善兵衛
近江屋平助
河内屋忠七
菱屋藤兵衛
菱屋平兵衛
須原屋茂兵衛
山賊屋佐兵衛
須原屋新兵衛
岡田屋嘉七
和泉屋由兵衛
和泉屋金右衛門
須原屋伊八
梶屋喜兵衛

